

I. アメリカ合衆国史単元「1800年の革命」

アメリカ合衆国史単元「1800年の革命」の、実施教科、授業者、実施日時、実施学校、実施学年、授業記録者は以下の通りである。

- 教科名：アメリカ合衆国史 (United States History) APクラス
- 単元名：1800年の革命
- 授業者（教師）名：ブラッド・アシュビー先生 (Mr. Brad Ashby)
- 授業実施日時：2013年10月22日第3限 (10:46-11:31, 45分)
- 実施学校名：アリサル高校 (Alisal High School, カリフォルニア州サリナス市)
- 実施学年（受講生徒数）：第11学年(男子15名、女子16名、計31名)
- 授業記録者：田尻信壹

1. カリフォルニア州サリナス市およびアリサル高校の概要



写真1 アリサル高校

アリサル高校の所在するカリフォルニア州サリナス市は人口 15 万人ほどの都市で、サンフランシスコ市から 120 キロメートルほど南方に位置する。戦前には、日系人のコミュニティーが存在し、農業に従事していたことでも有名である。今日、その名残として市内数カ所に日本式の仏教寺院を見ることができる。また、同市は日本語への関心が高く、アリサル高校を含め市内の公立 4 高校では、日本人教師による日本語授業（選択科目）が実施されている。

現在はヒスパニック系が住民の多数を占めており、カリフォルニア州の中でもヒスパニック系の割合が極めて高い地域である。主要産業は農業であり、特にレタス栽培で有名である。近年はモントレイ市などに通勤する人たちのベッドタウンとなっている。

同市は小説『エデンの東』（1952 発表）の作者、ジョン・スタインベックの生地として有名であり、ダウンタウンにはスタインベック博物館がある。この作品の舞台は同市であり、映画（1955）の中でジェームズ・ディーン演じる主人の父が貨物列車でレタスを冷温保存して輸送しようと試み、途中で冷凍用の氷が溶け大損をしてしまったという話は、スタインベックがこの町の出身者であったから書けたエピソードだったに違いない。

アリサル高校の在籍生徒数は 2,383 名（第 9 学年 617 名、第 10 学年 617 名、第 11 学年 607 名、第 12 学年 544 名）で、ヒスパニック系が全体の 97 %（2312 名）を占めている（ヒスパニック系以外の内訳は、アジア系 30 名、ヨーロッパ系 19 名、アフリカ系 8 名、ネイティブアメリカン 1 名である）（A resource of Public and Private U.S high schools data :

<http://high-schools.com/directory/ca/cities/salinas/alisal-high-school/63398005332/> 2014年8月26日確認)。ほとんどがヒスパニック系であるが、少数とは言え多種多様な人種・民族からなる生徒が在学しており、同校は多文化社会アメリカの今日の姿をよく投影していると言える。選択科目ではあるが、日本人教師による日本語が行われていることもあり、生徒の日本や日本文化に対する関心は高いものがあった。

2. 授業の特徴と意義

本授業はアメリカ合衆国史の授業（男子15名、女子16名、計31名）であり、トマス・ジェファソンが大統領を務めた時期（在任1801年～1809年）を中心に連邦政府が成立した1789年から米英戦争（1812年戦争、1812年～1815年）までのアメリカ合衆国の国家形成期を主な学習対象としている。

この時期のアメリカ合衆国は、Republicans（リパブリカン党、共和主義者）とFederalists（フェデラリスト党、連邦主義者）との対立を経て国家形成が進展したことを、トマス・ジェファソンの大統領就任演説（1801年）など数種の史料や年表、地図等を活用しながら、グループを単位にした学習を組み立てている。授業後半には、生徒各自が既習内容をもとに主題を設定して論文を作成するための方法について指導し、論文作成の宿題を課している。

この授業はAPクラス用として実施された。APとは、Advanced Placement Programの略称である。アメリカ合衆国の高校では、APクラスは大学低学年の入門授業と同等レベルの内容と見なされ、大学進学者用の授業と考えられている。日本では、さしずめ大学進学者を対象とした特進クラス授業と言ったところだろう。

APクラスでは、その授業に対するテストが1951年に開発され、非営利団体の大学委員会（College Board）によって、1955年から実施されてきた。APテストには5段階の到達度評価が設定されており、そこでの評価が大学の選抜資料や履修免除資料等に利用されると言う。歴史の問題は、多肢選択問題と自由記述問題から構成されている。自由記述問題では、各単元に特定の主題を設定されており、生徒自身は一次資料を活用しながら歴史事象を分析・解釈しながら、論文を作成することになる。授業後半での論文指導は、言語活動を通しての歴史的思考力や表現力の育成を図るとともに、APテストに向けての準備としての意味も読み取れる。

この授業の受講生は31名であり、日本の教室内の人数にも近く、教師と生徒の問答を中心にした授業の進め方や小集団に分けてのグループワーク、大学進学に向けての論文指導などが行われていた。それらの方法は、程度の差こそあれ、日本の歴史授業でも見られるものであり、日米の高校間において、授業に対する同様な取り組みが発見できたことは収穫であった。

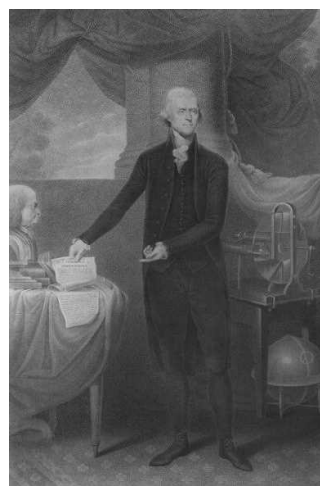
* APテストについては、岡弘輝（2010）「歴史的思考力を育成する世界史学習の構築-米国AP World Historyの分析を通して-」全国社会科教育学会『社会科研究』72、pp. 33 - 40、角田展子（2012）「世界史Bにおける論述力育成授業の試み APテストの論述問題を用いて」山川出版社、『歴史と地理』654（『世界史の研究』231）、pp. 16-28を参考にまとめた。

2. 授業の記録



写真2 課題を説明するアシュビー先生（教室の様子）

（アシュビー先生） いいですか。皆さん、席に着いて静かにできますか。では、授業を始めましょう。今日は、3つの政治概念の学習をしましょう。ホワイトボード上の文章を読んでみてください。そして、この史料がどんなことを意味しているか、話し合ってみましょう。



連邦議会図書館の好意により転載

But every difference of opinion is not a difference of principle. We have called by different names brethren of the same principle. We are all Republicans, we are all Federalists. If there be any among us who would wish to dissolve this Union or to change its republican form, let them stand undisturbed as monuments of the safety with which error of opinion may be tolerated where reason is left free to combat it.

—Thomas Jefferson First Inaugural Address, 1801

（日本語訳） しかし、あらゆる意見（*opinion*）の相違は、そのまま原則（*principle*）の相違ということにはなりません。我々は同じ原則の仲間を、違う名前と呼んできただけなのです。我々はみな共和主義者（*Republicans*）であり、みな連邦主義者（*Federalists*）です。もし我々の間に、この連邦（*Union*）を解体したい、あるいは共和政体（*Republican*）を変更したいと思っている人がいたとしても、彼らを邪魔しないでおきましょう。それは、理性が間違った意見と自由に戦える場所では、そうした意見を大目に見ても安全であることの証になります。

—トマス・ジェファソン 第1回大統領就任演説、1801年⁽¹⁾



写真3 アシュビー先生

(アシュビー先生) この史料には「しかし、あらゆる意見の相違は、そのまま原則の相違ということにはなりません我々は同じ原則の仲間を、違う名前と呼んでいただけなのです。我々はみな共和主義者であり、みな連邦主義者です。もし我々の間に、この連邦を解体したい、あるいは共和政体を変更したいと思っている人がいたとしても、彼らを邪魔しないでおきましょう」と書かれています。

この文章はトマス・ジェファソンの演説で正しいですか。この演説は何と呼ばれていますか、またどこから引用されたものですか。

*** 生徒たち同士の相談***

(アシュビー先生) もうよろしいですね。ジェファソンの大統領就任演説については話をしていませんでした。私たちはいろいろな史料を見て来ましたが、この就任演説だけはまだ見ていないのではないかな？

(女子生徒) この史料に関することが課題ですか。

(アシュビー先生) ジェファソンが大統領に選出された後に起きましたか。また、大統領に選出される前に何が起きましたか。そのことをこの資料から読み解くことが課題です。

(アシュビー先生) そうですね、彼は大統領に就任しましたね。この演説は彼が公職（大統領）就任の宣誓を行ったときのものです。宣誓の後で、大統領は何をしていますか。

(女子生徒) 演説です。

(アシュビー先生) そうですね。国民への演説です。今年（2013年1月20日—筆者挿入—）、オバマ大統領の就任演説を聞くために、私たちの学校では生徒たちをワシントンに派遣しましたね。

(生徒たち) はい、そうです。

(アシュビー先生) ジェファソン大統領もオバマ大統領と同じく再選を果たしました。さて、これは彼の最初の就任演説と呼ばれるものです。

いいかな。このことは連邦の大統領から民主的共和主義者の大統領へと政権が変化した時であり、政権の転換期であったと言えます⁽²⁾。



では、君たちは3つの課題を近くの生徒たちと話し合ってください。最初の課題はボード上の史料（ジェファソンの第1回大統領就任演説―筆者挿入―）の最初の文章に書かれています。2番目の課題は次に書かれた2つの文章の中にあります。3番目の課題は最後の文章の中にあります。

*** しばらくの沈黙***

写真4 グループごとに分かれた生徒たち。中央の人物がアシュビー先生。

（アシュビー先生） では、君たち、移動してグループを作ってください。

よいですか。この演説の中から3つの政治原則を書き取ってください。そう、最初のものは何ですか。それから、史料中に登場するとても重要な2つの政治概念ないしは2つの単語のことです。それはそれぞれ何ですか。見つけてみてください。

（生徒たち） 「意見（opinion）」です。

（生徒たち） もう一つは「原則（principle）」です。

（アシュビー先生） そうですね。「意見」と「原則」です。うーん、君たちは同じ「原則」を持ちながら、その「原則」についての異なった「意見」をも持つこともできると思いますか。

（生徒たち） できます。

（アシュビー先生） 分かりました。では、この演説においてジェファソンが取り上げていたのはどんな「原則」だったですか。

（男子生徒） 民主主義です。

（女子生徒） 民主主義です。

（アシュビー先生） そうですね、民主主義です。このことこそが、アメリカの建国者が自由を、そして個人の権利を獲得するために独立戦争を戦った理由でした。それでは、こ

の演説では、どんなことが民主主義という「原則」へ導くことができると言っていますか。

(生徒たち) 共和主義と連邦主義です。

(アシュビー先生) そうですね。「連邦主義者 (Federalists)」(以下、「フェデラリスト党」と訳す)と民主的な「共和主義者 (Republicans)」(以下、「リパブリカン党」と訳す)は共に民主主義を信じています。両党の「意見の相違 (difference of opinion)」とは、民主主義はどのように組織されるべきであるかということについてです。では、両党にはどんな違いがありますか？ まず、このことについて述べてみてください。次に、ジェファソンはこれら2つの政党(フェデラリスト党とリパブリカン党)のことについて何と言っていますか、述べてみてください。

(男子生徒) 政党のことですか。

(アシュビー先生) そうです。党名は異なりますが、2つの政党とも同じ目標、すなわち民主主義を目指しています。では、ジェファソンが演説の中でアメリカ国民に語り、大統領としての4年間で達成しようとしたことは何だと思えますか。

(男子生徒) 両政党の名称変更です。

(女子生徒) 両政党の名称と連邦政府の政策の変更です。

(アシュビー先生) そうですね。ジェファソンは両政党に対して言っていましたが、しかし、それは請願するものでした。では、彼は演説の中でフェデラリスト党によって国家の成立以来(1789年のアメリカ合衆国憲法の制定によってアメリカ合衆国が成立—筆者挿入—)12年間かけてつくられた連邦政府が解体されると言っていましたか。

(生徒たち) いいえ、そうは言っていません。

(アシュビー先生) その通りです。では、異なる意見をもつことは民主主義の「原則」に反するのでしょうか。

(生徒たち) いいえ、違います。

(アシュビー先生) その通りです。たとえ異なった「意見」を持っていたとしても、「原則」と矛盾するものではありません。同様に、ジェファソンらは政権に就いた後にこれまで政権を握って政党が行っていた政策をすべて取り除くことはしなかったでしょう。

数秒の沈黙

(アシュビー先生) しかし、ジェファソンらは自分たちの「意見」で政府の政策を少し調整することはできましたか。

(生徒たち) はい、できました。

(アシュビー先生) その通りですね。ジェファソンらがそうであったように、君たちも以前に作り上げた政策を廃止することはしないでしょ。そのことは民主主義がどのようにつくられてきたかを示すものだからです。では、ジェファソンがそのことを行わなかったとしたならば、彼に続く大統領がそれを行ったでしょうか。

(生徒たち) いいえ、行いませんでした。

(アシュビー先生) そうですね。このことが先例となっていたからでしょう。新しい政党が政権を得ても、それ以前の政権が行った政策を廃止することはしませんでしたね。新政権は前政権の政策をほんの少しだけ転換したのであり、その時々政治情勢に合わせて変更しているのです。そして、大変重要な意味を持つ最後の文章があります。ジェファソンはここで何と言っていますか。重要なことを言っていますね。「もし我々の間に、この連邦を解体したい、あるいは共和政体を変更したいと思っている人がいたとしても、彼らを邪魔しないでおきましょう」と。この部分は、アメリカ国民の中に民主主義と相反する意見をもつ人々が存在していたことを意味しているのでしょうか。

(生徒たち) いいえ、そう言うことではないと思います。

(アシュビー先生) その通りです。では、ジェファソンらは何を起こそうとしたのですか。

(男子生徒) 何も起こそうとしませんでした。

(アシュビー先生) 立って、発言してください！ 大きな声で言ってください！ 自分の意見を述べることは国民のもつ憲法上の権利ですよ。

(生徒たち) はい、何も起こそうとしていませんでした。

(アシュビー先生) 君がそう考えた理由を私たちに話してください。この時、ジェファソンは連邦議会の法令に反対します。実際のところ、フェデラリスト党の政権（第2代大統領ジョン・アダムスの政権－筆者挿入－）は民主主義と背反する政策を行っていましたね。では、その政策とはどんなものでしたか。

(女子生徒) それは「外国人と扇動に関する法」(Alien and Sedition Acts、1789年、第5回連邦議会でフェデラリスト党によって制定された法で、国家にとって危険と考えられ

ていた外国人を追放する権限を大統領に与えた。この法は 1802 年の帰化法によって廃止された) のことですか。

(アシュビー先生) そうです。「外国人と扇動に関する法」のことです。ジェファソンはアメリカの政治に根付いていたこの法律と戦っています。アメリカへの移住と居住の保障は市民として誰にでも認められた権利でしたから。しかし、この権利を実際に手に入れられるかと言えば、おそらく難しかったのでしょうね。

では、君たちに質問をしましょう。すぐに、グループの前列は向きを後ろに変え、相手と対面してください。

しばらくの空白

(アシュビー先生) 独立戦争からアメリカ合衆国憲法の制定を経てジェファソン大統領の誕生までの過程の中で、君たちが最も知りたいと思う質問を考えて下さい。そして君たちは自分たちのグループでその質問を読みあげ、グループとしてその答えを考えてください。そのための時間として 10 分ほど取りましょう。君たちは自分たちのグループで考えた質問の一つを取りあげ、クラスの人たちに発表してみして下さい。この活動の目的は、君たちが知識すなわち君たちが知らないことを獲得することではありませんね。私は君たちが質問を考え、その質問に対する答えを発見するまでのプロセスについて学んで欲しいと思っています。

*** 10 分間のグループ活動***



写真 5. 6 グループに分かれて熱心に議論する生徒たち。

(アシュビー先生) よろしいですね。それでは君たちの机の向きを元に戻してください。では、質問をしてください。

アメリカ建国時代の年表⁽²⁾

政党の主張

●ハミルトン（フェデラリスト党）の主張 ●ジェファソン（リパブリカン党）の主張

- ・ エリートによる連邦政府の樹立
- ・ 強力な連邦政府の樹立
- ・ イギリス政府をモデルとする
- ・ 終身制の官僚制度
- ・ 州政府の権限を制限
- ・ 人民によって運営された連邦政府の樹立
- ・ 抑圧的で高価な連邦政府の見直し
- ・ イギリス政府は墮落的である
- ・ 任期制の官僚制度
- ・ 連邦政府の常備軍制に反対

政治・社会の動向

- 1793 ホイットニーが綿繰り機を発明
- 1794 ウィスキー税の反乱。ワシントン大統領が鎮圧のために部隊を率いた。
- 1795 英国とジェイ条約を締結。スペインとピンクニー条約を締結。
- 1796 ワシントンの告別演説
- 1796 フェデラリスト党のアダムズが大統領当選、ジェファソンが副大統領就任。
- 1797 XWZ 事件。
- 1798 外国人及び煽動についての法。フランスとの戦争。
- 1798-1799 ヴァージニア及びケンタッキーの決議（反「外国人及び煽動についての法」）
- 1799 フリーズの乱。ローガン法。
- 1800 1800年の協定。リパブリカン党のジェファソンが大統領に当選。
- 1801 ジェファソンの大統領就任演説**
- 1802 帰化法
- 1803 フランスからルイジアナを購入。マーバリー対マジンソン裁判。
- 1804 ニュージャージーが奴隷制を廃止。憲法修正第12条発行。ジェファソンの大統領再選。
- 1804-1806 ルイスとクラークの探検。
- 1805 ティポリ戦争の終結（海賊の敗北）。
- 1807 フルトンがはじめて蒸気船を建造。米国船レオパードの沈没。出港禁止法の成立。
- 1808 アフリカ系奴隷貿易の廃止。
- 1809 通商禁止法の成立。
- 1810 フレクチャー対パーク事件
- 1811 第1合衆国銀行法再認可法案の否決。ティピカヌーの戦い。
- 1812-14 1812年の戦争（米英戦争）。好戦派、カナダ併合を要求。フェデラリスト党は戦争反対。
- 1814 ガン（ゲント）条約の調印。「好感情の時代（Era for Good Feelings）」の始まり。1816 第2合衆国銀行の設立。第1次保護的関税法の成立。
- 1818 1818年の協定

さて、私は君たちに話すことを忘れまていたことがありました。君たちが自分たちの質問を発表するときには、場所と日付のことを明確に示してください。たとえば、君たちが「1676年制定の『Blue Laws (休日の酒類販売を禁じる法律—筆者挿入—)』という法律について取り上げるならば、そうですね、この法律がコネチカット植民地で制定されたことに必ず触れてください。実際のところ、この法律を説明するためにはたくさん方法があるからです。いいですか。歴史学習においては、日付と場所がとても重要です。

では、始めましょう。もし君たちが自分たちの知らないことを理解しようとしていないならば、それこそが問題ではありませんか。高校の授業では、君たちに情報の獲得方法を教える資料を提供することが大切です。そして、君たちは、その情報を活用して結論に到達するための方法を見つけることになります。このことがゲーム終了（授業のまとめ）のための方法です。また、このことこそが君たちが授業で身につけなければならないことです。そうではありませんか。君たちは常に誰かが君たちに質問を提供してくれるわけではありません。君たちは自分自身で問いを立て、問いに対する答えを見つけださなければなりません。最初のプロセス（過程）は、君たち自身が何が分からないのかを見つけ出すことです。いいですか、君たちは先生に「これは君たちが理解しておかなければ行けないことです」と言わせないでください。君たちは自分の力で問いを立て、その答えを見つけ出すしなければなりませんね。

では、質問を見てみましょう。エリー、あなたのグループはどうですか。質問を読み上げてください。

（エリー／女子生徒） うーん、17…年の…法の重要性は何でしょうか。

（アシュビー先生） もっと大きな声で読まなければ聞こえませんね。

（エリー／女子生徒） 1799年のローガン法の重要性は何でしょうか。また、その法律の成果は何だったのですか。

（アシュビー先生） ローガン法についての質問ですね。ところで、この法律は何年に制定されましたか。

（エリー／女子生徒） 1799年です。

（アシュビー先生） もし1799年について歴史年表（「アメリカ建国時代の年表」を参照）で確認するならば、この年がアメリカとフランスの戦争直後だった点に着目すべきですね。

（エリー／女子生徒） はい、私もそうだと思います。

（アシュビー先生） ボードのシート（「XYZ事件」を参照）を見て下さい。XYZ事件が起きましたね。XYZ事件の日付はいつのことでしたか。

(男子生徒) 1797年のことです。

(アシュビー先生) その通りです。ローガン法の制定はこの直後のことですね。けれども、ローガン法は、講和条約でアメリカの一般市民がフランスと交渉することを禁じていました。どうして、このような法律が制定されたのでしょうか。実は、ローガンという人物がフランスと条約について

XYZ事件

- フランス海軍がアメリカ船舶を拿捕し、アメリカ政府はこの問題を收拾するためにトマス・ピンクニーをフランスに派遣した。
- フランス政府は賄賂なしにピンクニーと交渉することを拒否した。
- アダムズ大統領は、フランス外交官を「X、Y、Z」と呼んで、この出来事を連邦議会に報告した。
- 擬似戦争 (Quasi-War) - 連邦議会が対フランス強硬論が高まり、アダムズ大統領はアメリカ船舶にフランスとの貿易の停止とフランス船舶の接收を命じた。このことを契機に、両国は宣戦布告なしの戦争状態に突入することになる。

交渉した時には、どんなことが起こりましたか。ローガンはペンシルヴェニアに住むオランダ人であり、外国人である人物がフランスとの条約交渉を行いました。もしその国と関係が深い外国の外交官が第三国と交渉したとするならば、それは違反行為であり、アメリカ市民でも同様に禁じられることになりました。分かりましたか。これはアメリカとフランスとの外交問題です。第3国が介入することでも、一般市民が係わることで

もないと判断されたからです。よろしいですか。

では、君のグループはどうですか。住むオランダ人であり、外国人である人物がフランスとの条約交渉を行いました。もしその国と関係が深い外国の外交官が第三国と交渉したとするならば、それは違反行為であり、アメリカ市民でも同様に禁じられることになりました。分かりましたか。これはアメリカとフランスとの外交問題です。第3国が介入することでも、一般市民が係わることでもないと判断されたからです。よろしいですか。

では、君のグループはどうですか。

(男子生徒) 司法についてです。裁判法は 1801年のジェファソン政権にどんな影響を与えましたか。

(アシュビー先生) よい質問ですね。これは広がりのある問題ですね。最後に取り上げましょう。君たちのグループはどうですか。

(アシュリー先生) なぜ、ホープウェル条約は結ばれたのですか。また、条約の締結年はいつでしたか。

(男子生徒) 1785年です。



1787年当時のアメリカ合衆国。

(アシュビー宣誓) 1785年はアメリカ合衆国憲法制定の前ですか、それとも後ですか。

(生徒たち) 前です。

(アシュビー先生) アメリカ合衆国憲法制定の前のことですね。では、それは国のどこの場所に関する内容でしたか。私は君たちにホープウェル条約のことを話していませんね。君たちはそのことを知ったのはネットからですか、それともネット以外からですか。

ボード上の地図(左図)を見て下さい。政党の布告が南部地域の住民に与えられました。南部地域の住民は彼ら自身の領域を管理する権利を与えました。ところで、サウスカロライナの西側領域にはどんな人たちが住んでいましたか。

(男子生徒) 先住アメリカ人です。

(女子生徒) 先住アメリカ人です。

(アシュビー先生) 先住アメリカ人の内でもどの種族ですか。

(男子生徒) チェロキー族です。

(アシュビー先生) そうですね。チェロキー族です。他にチョクトー族、チカサウ族。彼らはジェファーソンはそうは言っていませんでしたが、一般には「気高い野蛮人」と称されていました。この条約で取り決めたことは、実際、「気高い野蛮人」であったこれらの先住アメリカ人のためにはよいことでありました。この条約は基本的には先住アメリカ人に土地の所有やさらに多くの権利、うーん、彼らを保護を保証するものでした。

けれども、この条約の重要性は、アメリカは、結局のところ、今以上にはもっと多くの土地を必要としているのと言うことでした。

(女子生徒) ええ、そうだったのですか。

(アシュビー先生) 綿繰機の発明の影響です。綿繰機はアメリカ人に新たな領土や地域

に綿花栽培を拡大することになりました。このことによって、誰が犠牲者になったでしょう。

(生徒たち) 先住アメリカ人です。

(アシュビー先生) そうです。先住アメリカ人です。この条約は破られます。そしてもっと多くの先住アメリカ人が、綿花栽培地の拡大のために、彼らの土地から追い出されていきます。まもなくのことでした。ホープウェル条約のように、アメリカ政府が先住アメリカ人と結んだ条約は、アメリカ政府によって破られることになりました。

しばらくの空白

(女子生徒) 1763年のパクストン・ボーイズの反乱の重要性は何でしたか。それほどここで起きたのですか、そしてなぜ起きたのですか。

(アシュビー先生) これはペンシルヴェニア西部においてです。ペンシルヴェニア西部の農民に過重な税が課せられたことが原因でした。彼らはフィラデルフィアの植民地議会では少数の代表しか認められませんでした。そのため、彼らは反抗を起し、「フィラデルフィアの行進」に立ちあがりました。その結果、ペンシルヴェニアでは税が下げられ、植民地議会における彼らの代表者数が増やされることになりました。

この反乱の重要性としては、アメリカの住民がイギリス人に対して団結して戦ったとしても、それは政治を担っていた東部エリート層であり、アメリカ人であっても彼らとは別々の集団のように思われていた西部の農民の間に重大な不統一があったことを示すことになりました。パクストン・ボーイズの反乱が意味したことは、たとえばアメリカ人がイギリス人に対して団結していたとはいえ、アメリカ人はまだばらばらの集団であったということでした。

(男子生徒) このことと同じ問題が1789年に連邦政府がつくられた際にもあったのでしょうか。

(アシュビー先生) はい、その通りです。1789年のことを話をしてありましたか。農民が過度の税負担を強いられていましたね。

(生徒たち) はい、聞いています。

(アシュビー先生) 税負担として、農民に課せられた税金は公正なものでしたか。

(生徒たち) いいえ、そうではありません。

(アシュビー先生) 君たちの言う通りです。では、農民たちはフェデラリスト党の政策

に対して反抗しましたか。

(生徒たち) はい、そうです。

(アシュビー先生) 農民たちはどんな政党に所属していましたか。

(男子生徒) リパブリカン党です。

(アシュビー先生) そうです。リパブリカン党です。そう、その政党は反乱に立ちあがっています。彼らは不公平な税金に反抗しました。そして、私はそのことを植民地で発見するつもりです。それは、ペンシルヴェニア植民地においても同様でした。ペンシルベニア植民地のオランダ人でした。それはペンシルヴェニア植民地のアーミッシュのような人たちでした。そのことはアメリカ人が政治的に経済的に分断されていたということを証明です。当時、ペンシルヴェニア植民地では、ウイスキーに対する税（酒税）ばかりではなく様々な種類の税が農民の生活を圧迫していました。

(女子生徒) そのことは 1672 年制定の青法（Blue Laws：北米植民地で制定された法で、日曜日に酒の販売を禁止するもの。－筆者挿入－）の重要性とも重なりますか。

(アシュビー先生) 青法、その法律はどこで制定されましたか。

(女子生徒) コネチカット植民地です。

(アシュビー先生) コネチカット植民地はどこにありますか。

(男子生徒) ニューイングランドです。

(アシュビー先生) ニューイングランドですね。ニューイングランドは男性優位の社会でしたか。

(女子生徒) はい、そうです。

(アシュビー先生) そうですね、そこは大家族の社会であり、家族は非常に密接な絆をもっていました。

(女子生徒) はい、その通りです。

(アシュビー先生) 子供の扱いはどうでしたか。

(男子生徒) 子供を厳格に躾けていました。彼らの社会は強固な宗教的価値観が存在し

ていました。

(アシュビー先生) どんな宗教に基づくものでしたか。

(女子生徒) ピューリタンの信仰です。

(アシュビー先生) そうですね、ピューリタンですね。ピューリタンの信仰組織はに非常に厳しかったですか。

(生徒たち) はい、そうです。

(アシュビー先生) どのような信仰でしたか。

(男子生徒) 予定説 (Predestination) です。

(アシュビー先生) 予定説ですね。女性や子どもは多くの権利をもっていましたか？

(生徒たち) いいえ、持っていませんでした。

(アシュビー先生) 若者たちは、誰一人、聖書ないしは教会、両親に反対意見を述べることができなかつたし、また、そうした場合には彼らを裁判にかけられ処罰されました。そして、裁判で教会や両親に反する言動を根拠にして、彼らを死刑にすることができました。もし君たちが両親に反対意見を述べるならば、当時ならば君たちの両親は君たちを裁判にかけられることもできました。そして、両親に衝突いたことを根拠にし処刑することもできました。

しばらくの空白

(アシュビー先生) では、他の質問を受け付けます。

(男子生徒) アシュビー先生。司法法 (the Judiciary Act) はアメリカ合衆国憲法の成立後、連邦政府にどのような影響を与えましたか。

(アシュビー先生) では司法法について話をしましょう。この法律はアダムズ大統領が選挙に敗れてマサチューセッツに引退する直前に制定されました。それは 1801 年のことでした。彼が大統領職を去る殆ど 1 カ月前のことでした。連邦裁判所、最高行政府、連邦議会の内、フェデラリスト党が支配する権力機関はどこだったですか。

(男子生徒) 最高行政府です。

(アシュビー先生) 最高行政府と連邦裁判所の 2 カ所です。連邦議会はフェデラリスト

党の手から失われていました。それで、彼らは「最後に自分たちの意見に沿った法律を作ろう。いいだろう。」ということで制定したのがまさにこの法律でした。彼らが連邦裁判所内の影響力を保持するための法律を作ったのでした。連邦裁判所に新たに 22 人の裁判官を任命する法律を作りました。そして、これらの裁判官を指名することができたのは誰か、推測して見て下さい。大統領です。ジェファソンが就任する前の大統領は誰でしたか。

(女子生徒) アダムズです。

(アシュビー先生) そうアダムズですね。アダムズはフェデラリスト党の息のかかった 22 名の裁判官を新たに連邦裁判所に指名しようとした。そして、彼が大統領職を去る直前の深夜に裁判官指名書に署名しました。これが歴史上「真夜中の判定」と呼ばれる人事です。アダムズが去った後、これら裁判官の任命は誰が行いますか。

(女子生徒) 次の大統領のジェファソンです。

(アシュビー先生) ジェファソンですね。そう、その時、裁判官の任命を履行することは大統領としての義務です。裁判官指名書はすでにアダムズによって大統領署名がなされていたので、ジェファソンを彼らを任命しなければなりません。しかし、ジェファソン新大統領は、実際、彼らを裁判官に任命しませんでした。連邦政府の役人任命権は誰の仕事でしたか。 国務長官 (Secretary of State) です。新大統領の国務長官は誰でしたか。

(生徒たち) ***。

(アシュビー先生) マディソン、ジェイムズ・マディソンです。そう、裁判官任命の仕事を引き継いで履行することは 国務長官であるマディソンの仕事でした。ところで、ジェファソン新大統領はこれら裁判官の任命を承認していましたか。

(女子生徒) いいえ、していません。

(アシュビー先生) そうでしたね。では、前大統領の仕事を引き継いで履行することは、新大統領の憲法上の義務ですか。

(男子生徒) はい、その通りです。

(アシュビー先生) はい、そうですね。ジェファソンは「それはできない」「私はそのことに同意していません」と言いませんでしたが、憲法上の曖昧な解釈を行いました。つまり、国務長官のマディソンが彼らの任命を履行しませんでした。そのため、新裁判官にな

マーバリー対マディソン裁判 (1803) 1

- 1801年の Judiciary Act (裁判官法) によって、最高裁判所に 22 人の新たな裁判官ポストがつくられた。
- 引退直前の大統領アダムズはすべてのポストを「深夜の任命された人たち」と言われた連邦主義者で充足した。その中にウィリアム・マーバリーがいた。
- ジェファソン新大統領は上院議員のジェームズ・マディソンにその人事を承認しないように指示した。
- マーバリーは最高裁判所に訴訟を起こした。



ウィリアム・マーバリー

マーバリー対マディソン裁判 (1803) 2

- 連邦最高裁判所首席判事のジョン・マーシャルは以下のことを裁決した。
- 第一に、国務長官のマディソンがマーバリーの連邦裁判所裁判官の任命を拒否するのは誤りである。
- 第二に、しかしながら連邦裁判所には、この権利を執行するための力をもち合わせていない。



ジェームズ・マディソン

る予定であったウィリアム・マーバリーという人物がマディソンを告訴することになりました。歴史上有名な「マーバリー対マディソン裁判」です。裁判の概要については、ボード上のシート「マーバリー対マディソン裁判 (1803) 1」「同2」を見て下さい。

では、この時の最高裁判所首席判事は誰でしたか。

(男子生徒) ジョン・マーシャルです。

(アシュビー先生) そうですね。ジョン・マーシャルですね。では、どの政党が最高裁判所を支配していましたか。

(女子生徒) フェデラリスト党です。

(アシュビー先生) フェデラリスト党ですね。最高裁判所は彼らがまだ権力を保持していた権力機関でした。では、マーシャルはどちら側を付いていましたか。

(男子生徒) フェデラリスト党です。

(アシュビー先生) マーシャルはマディソン国務長官に裁判官任命を履行することを命じましたが、その履行を強制することができませんでした。なぜならば、司法法自体が違憲であると見なされたからでした。

しばらくの空白

(アシュビー先生) この時、国会法 (the congressional act) が連邦議会を通過しており、国会法によって司法法が違憲とされたからでした。従って、マディソンは実際には告訴を撤回されることに成功しました。このことで、先例がつくられました。「裁判所は議会の制定した法律を憲法に違反すると見なすことができない」という先例です。議会が法律を作りますね。そうではありませんか。

(生徒たち) はい、そうです。

(アシュビー先生) よろしいですね。では、もし議会が悪法、すなわち憲法に違反する法律を作るならば、その法律は撤回されることが出来ますか。

(生徒たち) ええ、できます。

(アシュビー先生) どの権力機関によってですか。

(生徒たち) 最高裁判所です。

(アシュビー先生) そうです、最高裁判所です。最高裁判所は連邦議会の法を再検討することができますか。

(生徒たち) はい、できます。

(アシュビー先生) このことはどんな考えに基づいてですか。

(生徒たち) ***

(アシュビー先生) どんな考えですか。

(生徒たち) 法令審査 (Judicial review) ですか。



(アシュビー先生) そうです、法令審査ですね。最高裁判所は連邦議会の制定した法律を憲法に照らして再検討できました。そのことは彼らが連邦議会に対して行うことのできる権限です。裁判所は、最近、このことを行っていますか。

(女子生徒) はい、行っています。

写真6 課題を相談する生徒たち。

(生徒たち) 今夏 (2013 年の夏)、カリフォルニア州の法律に対して行いました。カリフォルニア州政府は同性婚を禁止する法律を通過させました。そのことに対して、ゲイとレスビアン (同性愛者) がカリフォルニア州を告訴しました。これらの人々は敗訴しました。そのため、これらの人々は地方控訴裁判所に告訴しましたが、敗訴となりました。さらに上告し、この問題は最高裁判所まで争われました。

では、最高裁判所はカリフォルニア州の法律に賛成の判決をしましたか、あるいは結婚を望む同性愛者に賛成の判決を行いましたか。

(生徒たち) ***。

(アシュビー先生) 同性愛者たちが勝訴しました。カリフォルニア州議会の法律をひっくり返しました。これが法令審査です。それでは、席をもとに戻しましょう。君たちの机を動かしてください。君たちに宿題を出します。君たちはまだ結論を出していない質問を一つ選びましょう。今日、君たちが聞いた問題、あるいは君たちやそのパートナーが書いた問題の中から選んで、ボード上のシート (次頁の「論文の4段落構成」を参照) で示されているように、4つの文章段落からく書けてありますか。序論では、書けてありますか。序論では、文章段落のすべての概念や考え方を提案がなされます。次に、君たちは問題の一部分に解答するための議論の場を設けます。それから、君たちは議論の説明を書きます。最後に、議論のまとめを書きます。そのことは重要であり、論文全体の効果を高めることとなります。それから、もう1つ大切なことがあります。君たちは議論を発展させるこ

とが必要です。結論は最小限にします。多くの場合、君たちは11文の文章段落で書きます。しかし、最小は8文です。

論文の4段落構成

- 「序論（イントロダクション）」部分
- 「議論立て」部分
- 「拡張/詳細」部分（ここで分析を行う）
- 「結論」部分

（女子生徒） 論文のテーマは私が知らない問題でなければいけませんか。

（アシュビー先生） 君たちが知っているが、しかしもっと多く知りたいと思うことを選んで欲しいですね。君たちは何も知らないテーマを選んではいけませんよ。なぜならば、君たちがそれを行うこと

は大変なことです。まず研究を始めるに際しては、知っていることであるが、しかし調べなければその答えを得ることのできないような問題を選ぶことが大切です。

（女子生徒） 論文のテーマは私が知らない問題でなければいけませんか。

（アシュビー先生） 君たちが知っているが、しかしもっと多く知りたいと思うことを選んで欲しいですね。君たちは何も知らないテーマを選んではいけませんよ。なぜならば、君たちがそれを行うことは大変なことです。まず研究を始めるに際しては、知っていることであるが、しかし調べなければその答えを得ることのできないような問題を選ぶことが大切です。

（生徒たち） はい、わかりました。

（アシュビー先生） では、君たちが宿題のテーマを決めるために数分だけ時間を取ります。今日の授業では、私たちは「マーバリー対マディソン裁判」について学びましたが、私たちはそのことに対しての答えをまだ出していませんね。君たちのこの問題に対する答えをノートで整理してみてください。

しばらくの空白

*** 終了のブザー ***

（アシュビー先生） 授業は終わりです。宿題のテーマが決まらないならば、昼食時か放課後に来てください。その時に相談しましょう。

授業の終了

註

(1) トマス・ジェファソン「第1回大統領就任演説」(一部分)の邦訳は、Embassy of the United States in Japan : About the USA の「トマス・ジェファソン第1回大統領就任演説」から一部改変して転写した。

(<http://aboutusa.japan.usembassy.gov/j/jusaj-jeffersonfirstinaugural.html>, 2014年3月19日確認)

(2) 本年表は、アシュビー先生の配布した年表の中の授業部分を翻訳したものである